

1 主要な施策の成果の概要

令和2年度は、世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症が国内でも猛威を振るい、その収束は未だ見通せない状況が続いています。市においても市民生活や地域経済が非常に大きな影響を受け、様々な局面で多くの困難に直面することとなりました。市は、感染拡大防止の観点から、多くのイベントや事業の縮小、休止、延期を余儀なくされたほか、数多くの行政サービスの提供に当たっては、これまでとは大きく異なる対応を迫られました。こうした状況の中、市は、早い段階から全庁連携体制を構築し、新型コロナウイルス感染症への対策として、「感染症拡大防止に向けた取組」、「市民生活及び子どもたちへの支援」、「地域経済への支援」の3つの緊急対応を柱に、国や東京都の緊急対策と連動した取組や市独自の施策を機動的に実施してきました。

こうした新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受ける中、市は、市民一人一人の命と健康を守るための感染症対策と社会・経済活動の活性化に向けた支援の両面から、適時・適切な対応を図りました。また、令和元年台風第19号での対応を踏まえた防災対策の強化を図るとともに、後期基本計画の2年次目として、引き続き、市民の安全・安心の確保と市民生活支援に継続的に取り組みました。さらに、計画に位置付けた5つの重点プロジェクトを基軸に、「横断的連携による施策の推進」と「調布のまちの魅力発信」の2つのアクションの実践により、施策全体の効果的な推進に取り組みました。

横断的連携による施策の推進については、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の充実や子どもの貧困対策、困難を抱える子ども・若者支援のほか、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組や各種相談体制の強化、ソフト・ハードが一体となった魅力あるまちづくり、1年延期となった東京2020大会に向けた取組など、各分野を横断し、組織や施策の枠を越えて対応すべきテーマとして、引き続き情報共有や課題解決に向けた連携・調整を図りながら、取組を推進しました。

調布のまちの魅力発信については、多様な主体と連携・協働する中で、利便性や快適性、自然環境、産業・観光など、調布のまちにおける多様な魅力の向上を図るとともに、インターネットや動画、ソーシャルメディアなどの活用や各種事業の実施を通じて、市内外への積極的な発信に努めました。

まちづくりの重点的な取組や諸施策の推進に当たっては、引き続き、市政経営の2つの基本的な考え方の下、行革プラン2019に位置付けた、市民参加と多様な主体との連携・協働の推進などの「参加と協働のまちづくり」や、簡素で効率的な組織体制づくりや事務事業の見直し・改善、限られた経営資源の最大限の活用、財政の健全性維持などの「持続可能な市政経営」に向けた取組を進めました。

令和3年度に向けては、新型コロナウイルス感染症に伴う市財政への影響等を踏まえて、各種取組の進捗調整等を行ったところですが、引き続き、「みんなが笑顔でつながる・ぬくもりと輝きのまち調布」の実現に向け、基本計画に位置付けた施策・事業の着実な推進に努めて参ります。併せて、防災対策の改善・強化や、今なお収束の見通しがたかない新型コロナウイルス感染症に伴う市民生活や地域経済への影響を踏まえた機動的な展開を図って参ります。